大阪公立大学医学部附属病院

病院情報誌 そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

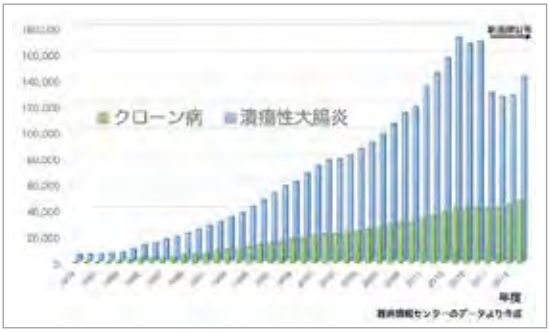
Contents 2022年10月 第45号

- 増えゆく腸の病気～炎症性腸疾患について～
- アトピー性皮膚炎の最新治療
- 進歩し続ける乳がん治療
- 消化器がんに対するロボット支援下手術
- 慢性片頭痛に対するボトックスと外科的治療 ～形成外科からの新たなるアプローチ～
- 震災に強い検査体制
- 認定看護師・専門看護師の活動について
- 診療科紹介　放射線科
- 感染症の豆知識～大腸菌～

増えゆく腸の病気 ～炎症性腸疾患について～

潰瘍性大腸炎とクローン病は炎症性腸疾患と総称され、腸に慢性の炎症が続く、原因不明の難治性疾患です。環境要因・遺伝的要因・腸内細菌バランス・免疫状態などが関係して発症すると考えられており、食事や文化の欧米化のためか？本邦において患者数は年々増加傾向にあり、稀な疾患ではなくなってきています。完治につながる治療は発見されていませんが、免疫力を抑える薬の一部（ステロイド剤や免疫抑制剤など）が有効であることから、過剰な免疫が悪さをしていることがわかってきています。ただ、我々の体にとって、免疫は新型コロナウイルスなどの病原体やがんなどの悪性腫瘍と戦うためには重要であり、やみくもに免疫力を下げる治療をすることは危険です。近年では、病状悪化に関係する特定の物質（腫瘍壊死因子；TNFなど）を、特異的に抑える治療薬（抗体製剤など）の開発がすすみ、以前の治療よりは強力かつ安全な治療薬が多く使用できるようになってきています。当院でも積極的にこういった新しい薬剤の使用に取り組んでいます。

（消化器内科　細見 周平）



本邦の医療受給者証交付件数

アトピー性皮膚炎の最新治療

アトピー性皮膚炎で小さいころからずっと湿疹やかゆみで悩んできたという方はたくさんおられると思います。今までの治療法に加え、最近では次々と新しい治療薬が出てきています。一つは注射製剤で、IL-4,IL-13という原因物質をピンポイントに抑える薬です。もう一つはJAK阻害剤という飲み薬で、様々な原因物質を抑えます。どちらのお薬も今までの治療薬に比べて非常に効果が高く、投与後よりかゆみが改善し、皮膚の状態も良くなっていきます。ただ、個々の症状に応じて、どの薬を選択するかを相談しながら決める必要があります。当院ではアトピー外来で専門医が治療に当たっておりますので、長年、アトピー性皮膚炎で悩んでいる、かゆみがひどくて日常生活にも支障が出るなど、お困りの方は是非ご相談下さい。

治療前　　治療後

（皮膚科　大霜 智子）

進歩し続ける乳がん治療

「乳がん」は世界で女性が最もかかりやすい「がん」であるため、世界中で様々な研究や臨床試験が行われており、新しい治療法や検査法が開発されています。例えば分子標的薬という、より乳がん細胞に集中して効果のある薬剤が使用されるようになったり、また、特定の遺伝子変異を見つけだす検査がわが国で保険適用されるようになりました。これら治療の進歩から、乳がん患者さんの治療結果が確実に良いものとなってきております。

この進歩のスピードは近年どんどんと早くなってきており、今まで一番良い効果を出していた治療法より優れた効果を出す治療法が短期間で開発されることも珍しくありません。しかし、従来の治療法とは異なる副作用を認める場合もあります。当院では、臨床・教育・研究を三本柱とする大学病院の強みを活かし、乳腺専門医たちが自らも研究を行いながら、最新の治療法・検査法を習得し続けていくことで、患者さん一人一人に合った、質の高い治療を提供しております。

（乳腺外科　後藤 航）

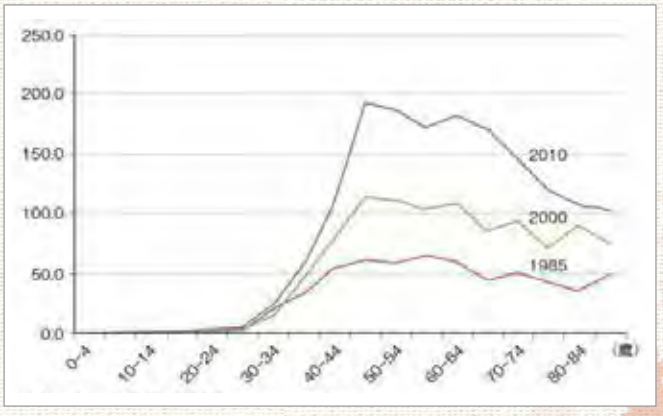


図　年齢階級別乳がん罹患率（人口10万対）
資料：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」
高精度地域がん登録（山形・福井・長崎）の癌罹患データ

乳腺外科のスタッフメンバー

消化器がんに対するロボット支援下手術

当科ではこれまで食道がん、胃がん、直腸がんなどの消化器がんに対して胸腔鏡・腹腔鏡下の低侵襲手術を多数行ってきましたが、最近では「ダ・ヴィンチ」という最先端の手術支援ロボットを用いた鏡視下手術を導入しています。ロボット支援下手術では人間工学に基づいた繊細な鉗子操作、多関節機能、手振れ防止機能、３Dカメラによる微細な解剖認識などにより、これまでの鏡視下手術に比べてさらに緻密な操作が可能となり、それにより機能温存や根治性の向上が期待できるようになりました。当科では内視鏡外科技術認定の資格を持つ７名のスタッフが在籍しており、豊富な経験を活かしこのロボット支援下手術に取り組んでいます。2022年４月からは直腸がんだけでなくすべての大腸がんにロボット支援下手術が適応拡大されました。今後さらに多くの患者さんに質の高い医療を提供できるようになることは想像に難くありません。

（消化器外科　渋谷 雅常）

手術者はサージョンコンソールと呼ばれる操縦席に座り３D画像を見ながら手元のコントローラーを操作します。

実際のロボット支援下手術

慢性片頭痛に対するボトックスと外科的治療

～形成外科からの新たなるアプローチ～

皆様または皆様の周りの方で、頭の痛みのために、こめかみや眉間を押さえたという経験が少なからずあると思います。片頭痛に苦しんでいる患者さんは日本人の約10%にみられ、仕事や私生活にも支障をきたす厄介な疾患です。
2000年に米国の形成外科医が片頭痛に効果的なボトックス治療と手術を報告して以降、欧米の形成外科領域では確立された治療法となっており、多くの片頭痛患者が痛みから解放されています。
アジアではほとんど認知されていない、ボトックス治療と片頭痛手術。
我々はアジアの片頭痛患者さんの希望となるべく、脳神経内科や耳鼻科と連携を組み、本治療を導入しております。
内服薬や皮下注射などで効果が不十分である片頭痛でお悩みの皆様、ぜひ一度形成外科へご相談ください。

（形成外科　出口 綾香）

慢性片頭痛に対するボトックス治療

慢性片頭痛に対する片頭痛手術のアプローチ
1　皺眉筋による眼窩上神経
2　神経圧排の解除

震災に強い検査体制

免震装置（装置設置前）

ドライ方式の分析装置

中央臨床検査部は令和4年1月4日より検体搬送ラインと検査装置を総入れ替えし、新しい体制でスタートしました。その体制のコンセプトの一つは、震災に強い検査体制を構築することでした。地震による揺れの対策として導入した免震装置は、セルシートと滑走プレートという2枚の鋼板を1.3ミリの隙間で重ねて設置し、その上に搭載された分析装置は可動範囲を超えても1.3ミリの落差により転倒リスクを最小限に抑えられるようになりました。断水の対策としては、水を使用せずに測定できるドライ方式の分析装置を導入しました。これらにより震災時でも継続して最小限の緊急検査を行えるような体制を整えました。

（中央臨床検査部　久保田 浩）

シリーズ　第20回

～認定看護師・専門看護師の活動について～

当院では、専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

集中ケア認定看護師

集中治療センターでの認定看護師の役割

集中治療センターは、お身体への負担が大きい手術や集中的に治療を要する患者さんが入室されます。集中ケア認定看護師の役割は、そのような特殊な環境下にある患者さんの訴えや痛みなどをつぶさに観察し、最新の幅広い知識と技術を持って看護ケアにあたることです。１日でも早く元の生活に戻れるように多職種と協働しながら患者さん一人一人にあった看護を提供させて頂いております。

― 患者さま、ご家族さまへ Message ―

COVID19の影響により、テレビで集中治療室を知った方が多いのではないでしょうか。集中治療室と聞くだけで、怖い、不安だ、と感じる方も多いと思います。私たちは、不安を感じる患者さんと向き合い、少しでも安心して過ごせるような看護を提供しております。何かありましたら、いつでもお声かけください。

（看護部　集中ケア認定看護師　木村 亜未）

集中治療センター入り口

認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
専門看護師とは、公益社団法人日本看護協会の専門看護師認定審査に合格し、ある特定の専門看護分野において、卓越した看護実践能力を有することを認められた者をいいます。
※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用　認定看護師：https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn　専門看護師：https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns

シリーズ 診療科紹介 放射線科

放射線科では、CTやMRIに代表される画像診断と、画像を用いて治療を行うIVR（インターベンショナルラジオロジー；画像下治療あるいはカテーテル治療とも呼ばれています）を担当しています。画像診断は、地域の医療機関から直接の検査依頼は受け付けておりませんが、当院全ての診療科の患者さんのCTやMRI画像は、放射線科の医師が診て、読影レポートを主治医に送っています。IVRでは、専門外来・病床を有しており、地域の医療機関・院内各科からの依頼に応じて、種々の治療を行っています。

（放射線科　三木 幸雄）

IVR治療中

感染症の豆知識

シリーズ２回目　大腸菌

今回の「感染症の豆知識」は、大腸菌についてです。名前の通り、大腸にいる細菌で、多くは無害です。一部の大腸菌は病気を起こしますが、種類によっては起こしやすい病気が異なっています。膀胱炎などの尿路感染症を起こしやすい大腸菌が代表的ですが、今回は、もう少しクセのある特徴的な大腸菌を2つご紹介します。

一つ目はK1と呼ばれるタイプです（図1）。K1とは、オーラのように大腸菌を覆っている「莢膜」と呼ばれる水飴のような特殊な膜のタイプを指します。出産の際に、母親から新生児に感染し、髄膜炎という重篤な脳の感染症を起こすことが知られています。ただし、頻度は低く、腸の中ではほぼ無害ですので、日常生活で過度に心配する必要はありません。

もう一つは腸管出血性大腸菌（EHEC）、キャラ名は「ベロダシ」です（図2）。ベロ毒素を産生するというダジャレで名づけました。ベロ毒素は大腸の血管を傷害する毒素で、大腸から出血、つまり、血便を起こす原因となっています。また、菌が血液に入り込むと、ベロ毒素によって全身の血管が傷害され、ときに急性腎不全を起こし、致命的な状態になることがあります。特に、乳幼児などの幼いこどもさん、基礎疾患を有する高齢者の方は要注意です。なお、EHECは、Kではなく、Oによる型が知られています。O157（オー・イチ・ゴー・ナナ）という名前を聞いたことがあるかもしれません。これはOの157番目の型という意味です。35～37℃くらいの温度を好むため、夏（6～8月頃）に感染者が増加します。牛肉などの食品由来での感染がよく知られています。75℃以上で1分以上加熱すると死滅しますので、調理の際、しっかりと火を通すことが予防の一つとして重要な点です。　（医学研究科　細菌学　金子 幸弘）

図1

K1 タイプの大腸菌

強そうな名前の K1。ただし腸の中ではほぼ無害。
でも時に髄膜炎を引き起こす厄介者。
表面の莢膜は多糖でできた水飴のような膜です。

図2

腸管出血性大腸菌　キャラ名は「ベロダシ」

感染性胃腸炎の原因菌、みんなもよく知る O157

発 行／ 大阪公立大学医学部附属病院
https://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/
所 在 地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町１丁目５番７号
電　　話：（０６）６６４５－２１２１（代表）
初診受付時間 ： 午前8時45分～午前10時30分
休　　診　　日 ： 土・日・祝日、12月29日～1月3日